

タイトル:平成 29(2017)年度 教育セミナー(第 13 回)

日時:2017 年 9 月 14 日(木)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

「イスラエル国防軍の女性兵士:国家、宗教、セクシュアリティ」

澤口 右樹 (東京大学大学院総合文化研究科)

この度、初めて教育セミナーに参加させていただきました。私の先輩方から教育セミナーに参加することを勧められていたこともあり、私自身以前から参加してみたいと思っておりました。ですが、今回の教育セミナーはこうした前評判以上の、また私が事前に予想していた以上の素晴らしい経験でした。

教育セミナーの最大の特徴は、受講生や発表してくださった先生方の多様なディシプリンや研究対象に接することができることだと思います。歴史学、人類学、政治学、国際関係といったディシプリンの多様さは、質疑応答の活発さに表れていると思いました。私自身の報告でも、様々な切り口からのご質問を頂くことができ、狭い視野に陥りがちな私にとっては、目が覚める思いでした。また「中東」という広い窓口を設定されているおかげで、トルコ、イラン、エジプト、中央アジア、南アジアといった地域のお話を聞くことができたことも大変刺激的でした。もちろん、それぞれの地域の研究をすぐ自分の研究に適用できるとは思いません。ですが、一連の講義や質疑応答での指摘を自家薬籠中の物とすることで、より自身の研究を広げることができると思います。こうした経験は、修士課程の学生である私にとって、他では得られない非常に貴重な経験でした。

加えて、受講生の出身地域の多様性も魅力でした。首都圏だけでなく、福岡、京都、大阪、新潟といった地域の、同年代の修士課程や博士課程の学生が多く参加されていました。東京在住の私は研究会などに参加するとき、どうしても近い地域からの参加者が多いため、見知った学生との交遊に限定されておりました。もちろん彼ら、彼女たちも私の重要な研究者仲間だと思います。それ以上に、日本全国に「中東」や「イスラーム」を研究しようと志す同年代の方々の存在を知ることができ、勇気づけられました。もっぱら、研究は孤独だとみなされやすい傾向があります。しかし、日本各地からいらっしゃった同年代の、また自分よりもはるかに優秀な受講生たちと出会えたことで、中東地域研究の広さを実感できました。何より、私の研究をしっかりと進めようという決意も生まれました。こうした実感は、私よりも、なかなか中東研究をされている同年代に出会えないような地方の学生たちにとってこそ、有益だと思います。教育セミナーはこうした研究者仲間の集う場としても、大変貴重な場所です。ぜひ、修士や博士課程の学生たちにも積極的に参加していただければと思います。

最後になりましたが、教育セミナーを運営してくださった先生方、事務局の千葉さん、また参加者の方々には心より感謝申し上げます。セミナーが終わっても、夜遅くまでご迷惑をおかけしながらも最後まで熱心にご指導していただいた先生方には、大変感謝しております。まだまだ未熟な学生である自分にとって、先生方から頂いたご指摘には十分お答えできないかもしれませんが、いつかお答えできるよう精進していきます。4 日間にわたるセミナーは、事務局の千葉さんのご尽力なくては成功できません。会場設営やレジュメ印刷から、昼食やコーヒープレイク準備など、多くの作業をてきぱきこなすお姿に、

大変感銘を受けておりました。今後、私の研究会運営のお手本とさせていただきます。そして、受講生の皆様には質疑応答、休憩時間や懇親会での議論など、大変ありがとうございました。今後、様々な場所で会うこととなるかと思いますが、その時もまたどうぞよろしく願いいたします。